

平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果  
国立大学法人電気通信大学

## 1 全体評価

電気通信大学は、イノベーションをもたらすための幅広く統合化された科学技術体系を「総合コミュニケーション科学」と捉え、それに関する教育研究の実践の場として世界的な拠点となることを目指している。第3期中期目標期間においては、強みとする情報・電子・ロボティクス・光・ナノ材料等の学術・技術の更なる高度化を推し進め、確かな専門性と学際的・複眼的な思考力を備えグローバルな環境で技術や社会を先導することのできるイノベティブな人材の養成と、次世代科学技術分野及び既成概念に捉われない境界・融合領域の創造を通じて、人々が心豊かに暮らせる持続発展可能な社会の実現に向けた役割を果たすことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、戦略目標として「D.C.&I. 戦略」を策定し、留学生受入や共同研究の充実に資する海外拠点や全国のリサーチ・アドミニストレーター（URA）人材の連携を目的とした「URA 共創プラットフォーム」の開設等により組織連携の拡大と資金獲得の強化を柱とした取組を推進しているほか、先端研究と結合した先進的なアクティブ・ラーニング環境を附属図書館に設置するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

### （「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 研究力強化構想をさらに加速する戦略目標として「D.C.&I.戦略」を策定し、留学生受入や共同研究の充実に資する海外拠点（電気通信大学UEC中国教育研究支援センター）の開設や、全国のURA人材の連携を目的とした「URA共創プラットフォーム」の開設等、組織連携の拡大と資金獲得の強化を柱とした取組を推進している。（ユニット「特色ある研究力の強化」に関する取組）
- 戦略的かつ機動的な大学運営のため、学長裁量経費を活用し、通信・ネットワーク、脳科学、エネルギー材料科学等の重点分野や、東南アジア諸国との連携活動支援を担うセンター等に戦略的な人員配置を行っている。また、ダイバーシティ推進セミナーの開催等、男女共同参画を推進した結果、全管理職に占める女性管理職の割合は13%（対平成27年度比8.7ポイント増）となっている。（ユニット「戦略的・機動的な大学運営の実施」に関する取組）

## 2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

## I. 業務運営・財務内容等の状況

## (1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載11事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

## (2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善

## 【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

## ○ URAによる産学官連携支援等による外部資金比率（共同研究）の上昇

リサーチ・アドミニストレーター（URA）が産学官連携支援部門を兼務し、共同研究目標額の設定、進捗管理及び組織間産学連携協定の締結並びに学外との共同研究施設である「UECアライアンスセンター」の入居企業とのワークショップ等を積極的に実施した結果、平成29年度における共同研究に係る外部資金比率は約2.8%（対前年度比0.6ポイント増）となっている。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載3事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

**○ 研究成果の国際的な発信及び継続的なトラッキング調査の実施**

研究成果の国際的発信を目的に、研究成果の英語発信ウェブサイトである「UEC e-Bulletin」において、約2,700のニュースメディアやジャーナリストにプレスリリースを配信するとともにトラッキング調査を行うことで、海外の有力ニュースウェブサイト（訪問者数7,300万人/日）等への掲載を確認するとともに、調査結果をウェブサイトの改善に活用している。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守等

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載19事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成28年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況
------------------

平成29年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

○ 先端研究と結合したアクティブ・ラーニング環境の整備

AI研究推進と学生の主体的かつ能動的な学びの場の提供を目的に、先進的なアクティブ・ラーニング環境「UEC Ambient Intelligence Agora」を開設し、200名以上の学修スペースとして機能するとともに、スペース内の学修の様子を多元データとして収録し、ビッグデータ・人工知能・ロボット技術等を活用した能動学習・適応学習等の研究としても活用している。